

★ まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>



129号
2011年2月17日

ときわ台の景観を守る会

ときわ台まちづくり委員会

代表 鈴木博之 近藤洋子

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

○ 藤和マンション行政訴訟の不当判決

2月16日(水)1時15分、東京地裁522号法廷において、藤和マンションに関わる行政訴訟の判決がありました。結果は残念ながら一部却下(審議せず門前払い)、一部棄却(審議はしたが訴えは認めない)となりました。常盤台住民の声は川神裕裁判長をはじめとする裁判官たちには届かなかったようです。

あの場所ではもっと低層の建物しかたたないはずなのに・・・おぎなりの道路拡張でごまかしているのに・・・常盤台の景観は決定的に醜くなってしまおうのに・・・折角裁判官が三人揃って街を見に来たのに・・・等々、苦勞の多い裁判を担ってきた人たちには、様々な感慨があると思われまふ。特にこの訴訟は、多くの常盤台住民以外の人たちも関心を寄せていただけに大変残念です。

内容の分析は21日(月)に弁護士と検討することになっています。控訴するのが2週間以内とされているので、原告会議も至急持たねばなりません。

とりあえずご報告を急いで出しました。次号に詳しい内容を報告します。

○ 土壌汚染

前野町の工場跡地が大規模マンションに生まれ変わる例が多い。P社の跡地も更地となり、いよいよマンション建設かと思いきや、いっかな工事のお知らせ看板が出ない。工事予定は浄化作業とあるのみ。地下水浄化や土壌改良といった作業が何ヶ月も続いている。

大手企業でさえ水俣や阿賀野川の水銀中毒事件を起こしたような日本のこと、前野町や大和町に沢山あった中小工場の土壌汚染はひどかったのかもしれない。付近に川がなかった場合、土中にしみこませたことは十分考えられる。築地市場の移転問題も、代替地の土壌汚染が背景にある。

水や土、空気は、生物の生命・健康に不可欠なもの。何気なく存在する大切なそれらを傲慢な人間が汚し続けてきたその報いを、私たちはこれから受けなければならないとしたら悲しいことだ。私たちのみならず、子孫も、人間以外の動植物も、今の一瞬だけの利益のために、生存を脅かされていくことを、みんながもっと真剣に考えてほしい。

○ 金沢市職員の名刺

京都の景観シンポジウムで、龍谷大学生が金沢市の職員の名刺をもらい、感激したといっせて見せてくれた。

左の部分にはありきたりの本人写真と連絡先などが印刷されているのだが、右側三分の一に横向きの女の子のイラストが描かれ、せりふのように言葉が口元に書かれている。

“このまちに恋しています”

なんともお洒落な名刺ではないか。

「私たちが金沢市民ですから」と述べていた彼らのまちづくりに対する姿勢も、市民以上の熱意を感じさせるものだった。行政が怠慢だったり、高圧的だったり、天下りがあったりすると、「税金返して」と言いたくなるが、この人たちが「市民の中には行政に要求ばかりして来る人がいて困る」と言っても納得してしまうに違いない。

落葉対策

街路樹の早すぎる剪定を、住民の「待った！」で延期してもらったことを前々号に載せましたが、その後、ある人からその為に落葉掃きが大変で、プロムナード沿いの人たちは苦勞したと聞きました。いつも落葉を掃いてきれいにする習慣の人は、そろそろ高齢化を迎える住民ばかりで、中腰の作業がつらくなっているようです。

先日の「しゅれ街協議会」のアンケートでも、景観度アップのため、もっと緑を、と言う声が圧倒的の一位でしたが、二位はこれ以上の緑は足りない、でした。それには緑をただ増やすのではなく、管理の面も考えてほしい、と言う声が背景にあるのではないかと思います。落葉掃きに苦勞している人たちも、そういう意見だと思われます。

常緑樹も季節を違えて落葉しますし、冬の日差しを大事に、夏の厳しさをやわらげ、CO₂削減に貢献するのは、なんといつてもプラタナスなどの落葉樹なのです。

また、最近駐車場が増えましたが、隣家の庭木の落葉が車の屋根を汚すから切ってくれと要求されたというケースも出てきました。

同じ良好な住宅地として知られている成城では、落葉の清掃車があるそうです。

この問題を解決する良い方法を皆で考えていきませんか。どなたか良いアイデア・ご意見がありましたら「まちづくりニュース」にお寄せください。

強盗、クリーニング店を襲う

二月三日（木）夜八時ごろのこと、「強盗！助けて〜」というクリーニング店の店員の悲鳴がバス通りに響きました。犬の散歩で通りかかった人は、愛犬を引きずるように駆けつけ、店の前でタバコを吸っていた不動産業の社員も飛んで行き、取り押さえた強盗は、マスクと眼鏡で顔を隠していましたが、なんとまだ二十代の女性。ナイフを店員に突きつけて売上金を奪うという犯行でした。共犯者が外にいるという嘘にもめげず、逃げる犯人を追って気丈な女性店員は往来に飛び出して助けを求めたのですが、犯人が取り押さえられたあとも震えが止まらないでいたそうです。いかに気強い人でも、凶器を突きつけられては怖かったことでしょう。

捕えてみれば娘のような年頃なので、余計複雑な気持ちとなり、何よりも逮捕に協力してくれた人に怪我がなくて本当に良かったと、取材に応じて店員は語ってくれました。彼女の勇気と対処の仕方に賞賛の声が上がっています。

平和な常盤台にしては「事件」でした。それにしても、若い女性がこのような事件を起こさねばならないほど、今の日本は住みづらく、生きにくい状況なのでしょう。

常盤台公園のはなづくり

冬になるといつも思うのですが、公園やロータリーの草花は、常に咲いていないのはならないものでしょうか。

草花の自然な姿は、春に萌え出し、花を咲かせたら、夏の間葉を茂らせ、秋には葉を落とし、冬は水ぬるむ春を待ちながら寒さに耐えている姿でしょう。中には冬咲く山茶花、椿、クリスマスローズなどもありますが、一般的には植物はこういう自然に従って生きています。

今のうちに年がら年中、花壇に花が絶えないのは、不自然なのです。冬は冬枯れた状態が良いので、枯れ木や寂しい花壇の状況があるからこそ、土をもたげてつぼみを覗かせる水仙や、チューリップの芽に、春の兆しを感じたり、待ち遠しい気持ちになるのです。温室育ちの苗は、中々冬を越せません。

人間も自然の姿が一番良いので、無理をして若く見せなくてもよいのではないのでしょうか。内面から滲み出る品格というものは、歳を取ってからでなくては得られないものです。内面が豊かでないから外面を取り繕うのかもしれない。

シミ・シワ・シラガと言うものは、「三Cの神器」と言って、大事にすべきものなのです。ご存知なかったでしょうか？

定例会三月十二日（土）七時〜

「ギャラリイ服部」にて